

甲子園大学学士課程及び大学院教育課程における 3 つの方針 －学位授与、教育課程編成・実施、入学者の受け入れ－

○本学の教育方針

「黽勉努力、和衷協同、至誠一貫」の建学の精神に基づいて、人格の完成を目指し、真理と正義を愛し、個人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた健全かつ有能な人材を育成することが、本学の教育目的である。この目的を達成するため、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を究明させて、知的・道徳的・応用能力を発揮させることを教育方針とする。

○本学の三つのポリシー

1. 大学としてのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

本学の学士課程において、幅広い教養を身につけ、専門知識と技術を修得し、以下の要件を満たした学生には学士の学位を授与する。

- 1) 学則に定める所定の期間、在学し、本学の教育理念及び教育目標に沿って設定した授業科目を履修し、卒業要件を満たす単位数を修得していること。
- 2) 身につけた幅広い教養と修得した専門的知識や技術をもって社会に貢献しようとする強い意志と自ら行動できる力を有していること。

【カリキュラム・ポリシー】

初年次教育においては偏りがなく、幅広い教養を身につけるための共通科目を設け、未知なものに好奇心をもたせ、学ぶことの楽しさや奥深さに気づかせることを目指す。また、総合教養科目と専門科目との連携を密にしながら、専門科目や実験・実習科目を通じて高度の知識と技術の修得を目指し、課題の発見及び問題解決能力を養う。また、社会における大学の役割を考え、大学と地域の連携を重視し、地域志向科目や学部ごとに地域実践演習科目等を設け、自治体や地元産業及び市民と連携を保ち、地域が抱えている課題の解決に貢献することを目指す。また、少人数教育の特徴を活かして、知識や技術の修得だけでなく、大学内及び社会生活において、相手の立場に立って考え、温かさ、やさしさをもって行動できる人材を育てることを目指す。

【アドミッション・ポリシー】

多くの課題を抱える現代社会においては、高度の課題解決能力が求められる。本学は建学の精神として黽勉努力（自らの心に従って、自発的に勉め励む）、和衷協同（和やかに心を込めて力を合わせ、共に行動し、ことにあたる）、至誠一貫（誠をもって人に接し、物事に対処して、一筋に真心を貫き通す）を掲げ、校訓三綱領としている。本学は、この校訓三綱領を理解し、基礎学力を有し、勉学意欲が旺盛で、食や心を通して人間の健康と幸福に関心を持つ人を受け入れる。

2. 学部学科のポリシー

(1) 栄養学部

栄養学科・フードデザイン学科

【ディプロマ・ポリシー】

栄養学部は、次に掲げる能力を有する学生に「学士（栄養学）」＜栄養学科＞、「学士（フードデザイン学）」＜フードデザイン学科＞の学位を授与する。

- a 学則に定める所定の期間在学し、各学科の教育理念及び教育目標に沿って設定した授業科目を履修して、卒業要件を満たす所定の単位数を修得していること。
- b 食と栄養を通じて人類の福祉に貢献しようとする意志を有し、それを実現する幅広い教養と専門的知識と技能をともに修得していること。
- c 社会生活に必要な基礎的教養とコミュニケーション能力を有し、社会の変化に対応できる総合的判断力を有すること。

栄養学科

- ① 管理栄養士として、ヒトの健康の維持増進を栄養・食事の面からサポートできる能力を有すること。
- ② 栄養・食生活などの専門的知識をわかりやすく相談者に説明、指導できる能力を有すること。

フードデザイン学科

- ① 食資源の利用・生産、食品成分の働き、食品の安全性、食品の開発・加工・製造、食品の流通・販売などに関する基礎的な知識や技術を修得し、食品をデザイン（企画・開発）する能力を有すること。
- ② 栄養士として、食を通じて、人々の栄養や健康の面から社会に貢献することを意識し、自ら行動できる能力を有すること。

【カリキュラム・ポリシー】

- a 幅広い教養を身につけ、コミュニケーション能力、判断力、社会貢献に対する意識を養うために、教養科目を配置する。
- b 各学科の提供する専門科目を通じた専門的知識の修得と論理的思考を行う力を身につける。
- c 豊かな人間性により他者の心情を共感、理解し、自ら情報を発信し円滑なコミュニケーションを通じて指導できる力を身につける。

栄養学科

- ① 管理栄養士教育に関わる体系的な知識を修得するために、年次進行に従い、基礎科目から段階的に専門、応用に至る科目を配置する。
- ② 管理栄養士としての専門的な実践力を高めるために、科目間の総理解を深める科目ならびに現場での実習科目、地域連携科目を配置する。

フードデザイン学科

- ① 食材の生産、食品成分の働き、食品の開発・加工・製造、食品の流通・販売などに関する知識が修得できるように、年次進行に合わせ体系的に科目を配置する。最終年度においては、学習成果を集大成する科目を配置する。
- ② 食品のデザイン（企画・開発）を自ら立案、実施できる能力を養うために講義・実験実習などの専門科目、ならびに地域連携に関する科目を配置する。
- ③ 栄養士として、人々の健康の維持増進を食事・栄養の面からサポートできる能力を養う科目及び社会で活躍できる実践力を養う実習科目や学外実習を体系的に配置する。

【アドミッション・ポリシー】

栄養学科

(イ) 教育方針及び受け入れの基本方針

医学、食品学の基礎の上に栄養学の専門理論と技術を修得・実践することで、管理栄養士、食のマネジメントのプロフェッショナルを育成する。

(ロ) 求める学生像

十分な意欲と基礎学力を持ち、栄養学関連の自然科学に興味を示し、人々の栄養改善・健康増進に貢献したいという明確な目標と熱意を持つ人物を求める。

フードデザイン学科

(イ) 教育方針及び受け入れの基本方針

食品学・栄養学の基礎の上に、栄養士として力を身につけ、広範な食に関わる分野の専門知識と技術を修得・実践することで、健康のための食を創るプロフェッショナルを育成する。

(ロ) 求める学生像

十分な意欲と基礎学力を持ち、食に関する諸課題（特に食品の開発、食の安全、わが国の食料問題等）を解決し、食を通して人々の健康増進に貢献したいという明確な目標と熱意を持つ人物を求める。

(2) 心理学部

現代応用心理学科

【ディプロマ・ポリシー】

心理学を学ぶことによって、人々の幸福に貢献するために、心理学の専門知識や技術を応用できるようになることを目指し、次に掲げる4つの力を有する学生に「学士（心理学）」の学位を授与する。

- a 心理学の専門を通して、科学的視点に基づいて人の心や行動のもつ特性を知識として学び理解する力があること。

- b 幅広い教養や心理学の基礎知識を通して、情報やデータを収集・加工して活用する力、情報から論理的に結論を導く力、自らの考えを適切な言葉で表現し発信する力、他者とコミュニケーションを図り協働する力をもつこと。
- c 心理学の専門性と学術的知識の活用方法を実践的に学ぶことによって、市民あるいは社会人としての責任と倫理観をもち、社会に積極的に貢献しようとする意欲を有していること。
- d 「卒業研究」で学ぶことを通して、総合的な学習経験と創造的思考力を習得し、知識・技能等を活用して自ら立てた課題を解決する能力を身につけていること。

【カリキュラム・ポリシー】

- a 心理学に関する科学的知識や方法論、学習内容を応用する力を修得できるように、初年次から段階的に専門科目を高度化する体系を編成して、心理学の基礎知識と方法論、専門知識の獲得と応用を、年次を追って配置する。
- b 教養教育において心理学以外の分野の知識を修得するとともに、大学での学びの基礎となる読解力・表現力・論理的思考力・情報発信力を養うために、少人数による「心理学基礎セミナー」を設ける。
- c 心理学についての専門知識を基礎から修得するために、「基礎心理学」「臨床心理学」「健康・スポーツ心理学」「ビジネス心理学」「犯罪心理学」の各領域について幅広く学べる専門科目を配置する。またその前段階として「心理学概論」をはじめとする各領域の概論を配置する。
- d 心理学の基礎的な方法論とスキルを修得するために、「基礎実験実習」「研究法」「統計法」「心理アセスメント」などの実習・演習科目を配置する。
- e 5領域のそれぞれで学んだ心理学の専門知識を応用し、自らの関心や問題意識とつなげて人の行動や心の特性について深く考え、新たな知見をもたらす力を養うために、「心理学専門セミナー」を設ける。
- f 公認心理師として必要な知識・技術・職業倫理を修得するための専門科目と、将来の実践現場である保健医療・教育・福祉・司法・産業の各領域において「心理演習」「心理実習」を配置する。
- g 自ら学んだ専門知識の社会での活用方法を実践的に考え、キャリア形成を積極的に探索するために、「インターンシップ」を設ける。
- h 4年次教育において、学習した知識と自ら設定した問題について科学的な手法で探索する力、研究の成果を適切な表現を用いてまとめ、それを発表する力などの総合的な能力を養うために、「卒業研究」を設置し必修とする。

【アドミッション・ポリシー】

(イ) 教育方針および受け入れの基本教育方針

自分を含めた人間に強い関心を持ち、探求心をもって人の心と行動、人と社会の相互作用を深く理解すること、さらに人の心と行動の多様性や社会のありようを予測的に考

えることを通じて、心理学の専門知識を生かしながら、人々の健康や幸福に貢献できる人材を育てる。

(ロ) 求める学生像

基礎学力、思考力、高い協調性を有し、人の心の動きやそれが引き起こす諸課題を理解したいという意欲をもって、調査や対人支援など社会の様々な要求に対して心理学を応用し、人々の幸福のために貢献したいと願う人物、また公認心理師、臨床心理士をめざす人物を受け入れる。

3. 大学院研究科のポリシー

(1) 栄養学研究科 **博士前期課程**

【ディプロマ・ポリシー】

カリキュラム・ポリシーに示した内容の能力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した大学院生に対して、修士（栄養学）の学位を授与する。

a 修了時に備えるべき能力食品及び栄養に関して体系的に身につけた専門的なものの見方や専門的技術を生かし、社会に還元できる能力を備えていること。

b 学位の授与を認定する方法

修士論文の審査は、主査及び副査による論文審査、公開の論文発表会と審査委員による口頭試問を行い、修士の学位授与について可否を判定する。

【カリキュラム・ポリシー】

現代社会が抱える食品及び栄養に関する多くの課題の解決に対して、専門的な知識と応用力を身につけ、食品栄養学の分野に貢献しうる実践的で行動力があり、創造的思考力を持つ人材を育成するためのカリキュラムを編成し、実施する。

【アドミッション・ポリシー】

栄養学と食品学の2領域を設け、栄養学領域は基礎栄養学と臨床的な分野を含む応用栄養学の2部門から成り、幅広く現代社会に対応した教育・研究を行う。食品学領域は高度な機器分析を活用する食品分析科学と食糧資源の枯渇に対処する食資源利用学の2部門から成り、食品の機能性と安全性と食糧資源の確保を追求する教育・研究を行う。これら2つの領域を基盤として食品栄養学を習得し、専門的な考え方や専門技術を生かして社会に貢献することを目指す人を求める。

博士後期課程

【ディプロマ・ポリシー】

カリキュラム・ポリシーに示した内容の能力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した大学院生に対して、博士（栄養学）の学位を授与する。

a 修了時に備えるべき能力 専門領域のより深い知識と思考力を身につけ、自立した研究者、指導者としての能力を身につけていること。

b 学位の授与を認定する方法

博士論文の審査は、主査及び副査による論文審査、公開の論文発表会と審査委員による口頭試問を行い、博士の学位授与について可否を判定する。

【カリキュラム・ポリシー】

栄養学及び食品学を総合的に修め、大学での教育研究者、企業や各種研究機関において自立して研究を遂行できる能力を有する研究者、管理栄養士の活動を支える指導者及び教育者、地域社会においてリーダーシップを発揮し、健康づくりシステム等を開発し、創造的に推進できる実践的指導者などの育成を目的としたカリキュラムを編成し、実施する。

【アドミッション・ポリシー】

基礎栄養学、応用栄養学、食品分析科学、食資源利用学の4部門を設ける。博士前期課程で修得した知識、技術及び考え方を基盤に各部門においてより深い知識と思考力を身につけ、大学や企業及び各種の試験研究機関において活躍できる自立した研究者及び教育者を目指す人、さらに地域社会においてリーダーシップを発揮し、健康づくり運動等を積極的に推進できる能力を有し、実践的な指導者を目指す人を求める。

(2) 心理学研究科 **博士前期課程**

【ディプロマ・ポリシー】

- a 臨床心理学又は心理学を中心とした高度な専門知識について深い理解を持っていると同時に心理学以外の領域についても学び、物事を幅広い視野から深く考えるために役立てることができていること。(知識)
- b 臨床心理学又は心理学の知識を通して人間と社会への深い理解、さらに、社会人として求められる倫理観や責任を持ち、他者ととともに専門職業人として協働できる能力を有していること。(態度)
- c 臨床心理学又は心理学の知識を通して他者とのコミュニケーションスキル、データや資料を読み取る能力、情報処理能力などの技能を獲得していること。(汎用性技能) d 総合的な学習経験と創造的な思考力の集大成として修士論文を提出していること。

【カリキュラム・ポリシー】

- a 臨床心理学と心理学コースに関わる現象について、科学的に探究し、問題を発見・解決していける高度専門職業人を養成するために、講義科目、演習科目、実習科目からなるカリキュラムを配置する。
- b 自らの専門に対し複眼的な思考と視点を持ち、柔軟に取り組むことができるように「インターディシプリナリー研究」科目を配置する。
- c 公認心理師及び臨床心理士として必要な専門的知識と技術を修得するための科目を配置する。

- d 修士論文は、演習科目において実施した研究をもとに新たな知見について公表することを必修とする。

【アドミッション・ポリシー】

臨床心理学あるいは心理学及び関連した分野の問題に強い関心を持つと共に、豊かな人間力を持ち、人々の幸福の向上に取り組む真面目な態度と情熱を持っている人を求める。

博士後期課程

【ディプロマ・ポリシー】

- a 心理学に関する最新の知見と考え方、対象としている社会的な問題とその周辺的な課題について専門的な知識に基づき、科学的な探究が行えること。(知識)
- b 心理学についての未開拓、未解決な課題を解決するための研究を行い、関連する学問分野や社会に新しい知見を提供できるようになること。(態度)
- c 心理学について、独自の研究計画・方法・知見を見出し、心理学分野に新しい知見を提供できること。(技能)

【カリキュラム・ポリシー】

- a 指導者・研究者として自立していくための高度な知識と技術の習得、態度の形成に必要なカリキュラムを配置する。
- b 博士論文作成に向けた研究指導を第一の目的とし、それに関連する学会発表や論文投稿についても積極的な指導を行う。
- c カリキュラムの学びのほかに、指導者・研究者としての経験を積むことを奨励する。

【アドミッション・ポリシー】

「人間」の心についての専門的な知識や技能を持って、人や人間関係等に生じる様々な課題に取り組むことに強い関心を持っており、修得した知識や技能を教育・研究・実践に生かし社会で活躍することを目指している人を求める。